

平成24年度
事業報告書

学校法人 昭和大学

はじめに

平成 24 年度学校法人昭和大学事業報告書をここに上梓いたしました。

優れた医療人の育成のため、創設者が唱えた建学の精神である、常に真心を持って相手の立場で考える「至誠一貫」の体現に向け、諸事業に取り組みました。

教学面では、教育・研究をより一層深化させるため、医学部、歯学部及び薬学部において組織の再編を行い、大講座部門制を導入いたしました。また、医系総合大学の特色を活かした初年次からの学部連携教育については、引き続き取り組みを行いました。

また、昨年度開設された昭和大学臨床薬理研究センターにおいて、臨床試験のほか、薬物治療学分野の合理的薬物治療実現に向けた研究に取り組みました。

附属病院では、昭和大学新豊洲病院(仮称)建設事業について、平成 26 年 3 月開院に向けた建設工事を進めております。病院名も「昭和大学江東豊洲病院」と決定し、運用面についても検討を進めております。また、病院活性化推進委員会のプロジェクトを推進し、病院経営活性化、地域医療連携推進、診療科センター化等の事業に取り組みました。

その他特記すべき事業の一つとして、9 月 20 日・21 日に（財）医学教育振興財団主催の「第 32 回国内医科大学視察と討論の会」を当番校として開催いたしました。本学が取り組んでいる「全寮制教育」「体系的・段階的学部連携教育」「国際交流」「地域医療実習」について好評を博したことは、教育職員、学生の更なる意欲向上につながるものであります。

特記すべき二つ目の事業として、第 2 回学生総合意識調査を実施いたしました。調査結果を分析し、学生にサービスを提供する側である職員の意識改革と、受け手側である学生のニーズに対応した教育カリキュラムや教育環境等の整備・創出に取り組み、学生支援に努めております。

このように平成 24 年度も様々な事業を展開してまいりました。本事業報告書には、これら本学における主要な事業を総括し、関係各位の皆様方へご報告申し上げるものであります。本報告書が本学をご理解いただくための有益な資料となれば幸いです。

理事長 小口 勝司

平成24年度 学校法人昭和大学 事業報告書

目 次

第1章 法人の概要

1	建学の精神	1
1	1. 建学の精神	1
2	2. 昭和大学の教育理念	1
2	学校法人の沿革	1
3	学校法人昭和大学組織図	3
4	設置する学校・学部・学科	4
5	学校・学部・学科等の学生数の状況	4
6	役員の概要	5
7	評議員の概要	5
8	職員の概要	8
1	1. 教育職員数	8
2	2. 職員数	8
9	志願者数、合格者数、入学者数	9
10	卒業・修了者数	9
1	1. 学部	9
2	2. 大学院	9
3	3. 専攻科	9
4	4. 附属学校	10
11	国家試験結果	10
1	1. 学部	10
2	2. 専攻科	11
3	3. 附属学校	11

第2章 事業の概要

第1部 平成24年度事業計画実施報告（重点目標と主要事業）

1	教育の充実	12
1	1. 学部内組織の再編	12
2	2. 学士課程教育の充実	12
3	3. 大学院課程教育の充実	12
4	4. 助産学専攻科の設置	13
5	5. 学生支援	13
2	研究の充実	13
1	1. 昭和大学臨床薬理研究センター研究環境整備	13
2	2. 研究活動の推進	14
3	国際交流	14
1	1. 国際交流の発展的展開	14
4	附属学校の活性化	15
1	1. 医学部附属看護専門学校の充実	15
5	附属病院	15
1	1. 病院経営の活性化	15
2	2. 地域医療連携の推進	15
3	3. 診療科のセンター化推進	15
4	4. 新豊洲病院（仮称）整備事業	15
6	管理運営の充実	16
1	1. 管理運営体制の整備と円滑な大学運営	16
2	2. 施設設備の整備・活用	18
3	3. 福利厚生の充実	19
4	4. 広報活動・学生募集活動の充実	19

第2部（本学の事業）

1	教育・研究	20
1	1. 医学部・医学研究科	20
2	2. 歯学部・歯学研究科	21
3	3. 薬学部・薬学研究科	21

4. 保健医療学部・保健医療学研究科	22
5. 富士吉田教育部	23
6. 研究所・共同施設	24
2 学生・卒業生支援	25
1. 奨学金	25
2. キャリア支援	25
3. 健康管理	25
4. ホームカミングデー	26
5. 課外活動等	26
3 国際交流	26
1. 学生の海外の大学における実習・研修	26
2. 交流協定の締結状況	28
3. 職員の海外留学、海外出張	29
4. 学部留学生・大学院留学生の受け入れ	31
4 地域連携	32
1. 公開講座	32
5 図書館	35
1. 図書の整備	35
6 附属学校	35
1. 医学部附属看護専門学校	35
7 診療施設	36
1. 昭和大学病院	36
2. 昭和大学病院附属東病院	36
3. 藤が丘病院	36
4. 藤が丘リハビリテーション病院	37
5. 横浜市北部病院	37
6. 豊洲病院	37
7. 烏山病院	38
8. 豊洲クリニック	38
9. 歯科病院	38

第3章 財務の概要

1 決算の概要	39
1. 貸借対照表の状況	39
2. 収支計算書の状況	39
2 経年比較	40
1. 貸借対照表	40
2. 収支計算書	41
3 主な財務比率比較	43
4 その他	44
1. 借入金の状況	44
2. 学校債の状況	44
3. 寄付金の状況	44
4. 補助金の状況	45
5. 関連当事者等との取引の状況	45

平成24年度 事業報告書

第1章 法人の概要

1 建学の精神

1. 建学の精神

「国民の健康に親身になって尽くせる優れた臨床医家を養成する」が本学の建学の精神である。これが何事にも真心をもって尽くす「至誠一貫」の言葉で受け継がれている。

2. 昭和大学の教育理念

医系総合大学の特徴を生かし、専門領域の高度な知識と技能を身につけるとともに、学部の枠を越えてともに学び、互いに理解し合え、協力できる人材を育成する。そして、その専門職にふさわしい人間性豊かな医療が実践でき、高い倫理性と豊かな社会性を備え、生涯にわたって学習・研究を怠らず医療の向上に邁進する、真の医療人たりうる資質を磨き上げる。

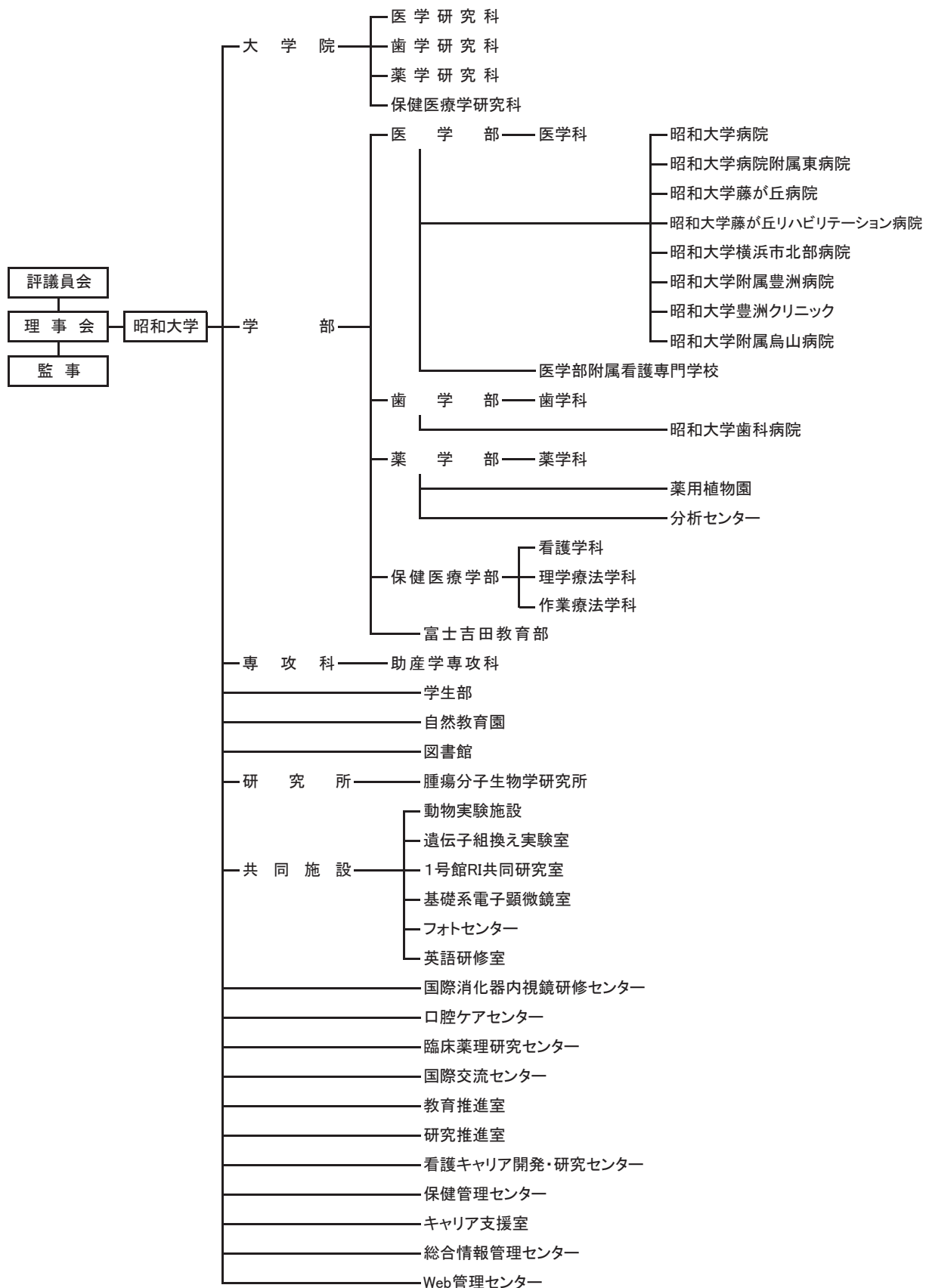
2 学校法人の沿革

昭和3(1928)年3月	財団法人昭和医学専門学校設置認可
5月	医学専門学校附属医院開院（現在の昭和大学病院）
昭和6(1931)年8月	附属産婆看護婦講習所設置認可
昭和21(1946)年4月	財団法人昭和医科大学設置認可（大学令による医科大学）
昭和26(1951)年2月	財団法人から学校法人に組織変更
7月	烏山病院開院
昭和27(1952)年2月	昭和医科大学医学科（専門課程）設置（学校教育法による）
昭和34(1959)年3月	大学院医学研究科（博士課程）設置認可
昭和39(1964)年3月	昭和大学に名称変更
	薬学部薬学科設置認可
	医学部附属高等看護学校設置認可
昭和40(1965)年4月	富士吉田校舎開設
昭和41(1966)年12月	薬学部生物薬学科設置認可
昭和44(1969)年3月	大学院薬学研究科（修士課程）設置認可
昭和47(1972)年12月	昭和大学附属烏山病院高等看護学校設置認可
昭和49(1974)年3月	大学院薬学研究科（博士課程）設置認可
昭和50(1975)年7月	昭和大学附属烏山病院高等看護学校第二看護学科設置認可
	藤が丘病院開院

第1章 法人の概要

昭和51(1976)年9月	昭和大学附属烏山高等看護学校（専修学校に切替）
昭和52(1977)年1月	歯学部歯学科設置認可
6月	歯科病院開院
昭和53(1978)年11月	医学部附属看護専門学校設置認可（専修学校に切替）
昭和57(1982)年6月	豊洲病院開院
昭和58(1983)年3月	大学院歯学研究科（博士課程）設置認可
平成2(1990)年6月	藤が丘リハビリテーション病院開院
平成6(1994)年4月	昭和大学附属烏山看護専門学校と名称変更
平成8(1996)年3月	昭和大学附属秋田外科病院廃止
12月	昭和大学医療短期大学設置認可
平成9(1997)年1月	昭和大学腫瘍分子生物学研究所開設
12月	大学院薬学研究科設置認可 薬学専攻・医療薬学専攻 博士課程（前期・後期）
平成11(1999)年4月	昭和大学病院附属東病院開院
平成13(2001)年2月	診療放射線専門学校設置認可
4月	横浜市北部病院開院
12月	昭和大学保健医療学部設置認可
平成17(2005)年5月	昭和大学医療短期大学廃止
平成18(2006)年4月	保健医療学部看護学科助産師学校指定
4月	教養部を改組し富士吉田教育部設置
4月	薬学部6年制教育開始に伴い薬学科、生物薬学科を薬学科に改組
11月	豊洲クリニック開院
11月	大学院保健医療学研究科（修士課程）設置認可
平成23(2011)年3月	診療放射線専門学校廃止
4月	大学院薬学研究科博士課程（前期）廃止
5月	大学院薬学研究科博士課程（後期）募集停止
6月	大学院薬学研究科博士課程（4年制課程）設置届出
10月	大学院保健医療学研究科課程変更認可 保健医療学専攻 博士課程（前期・後期）
平成24(2012)年4月	助産学専攻科 助産師学校指定

3 学校法人昭和大学組織図(平成25年3月31日現在)



第1章 法人の概要

4 設置する学校・学部・学科

設置する学校	開校年月	学部・学科等	摘 要
昭 和 大 学	昭和27年4月	医学部・医学科	
	昭和52年4月	歯学部・歯学科	
	平成18年4月	薬学部・薬学科（6年制）	薬学科、生物薬学科（4年制）を改組
	平成14年4月	保健医療学部・看護学科	
	平成14年4月	保健医療学部・理学療法学科	
	平成14年4月	保健医療学部・作業療法学科	
	昭和34年4月	大学院医学研究科（博士課程）	
	昭和58年4月	大学院歯学研究科（博士課程）	
	平成10年4月	大学院薬学研究科（博士前期課程）	修士課程を改組 平成22年度募集停止 平成23年4月廃止
	平成10年4月	大学院薬学研究科（博士後期課程）	博士課程を改組 平成23年度募集停止
	平成24年4月	大学院薬学研究科（博士課程）（4年制）	
	平成24年4月	大学院保健医療学研究科（博士前期課程）	修士課程を改組
	平成24年4月	大学院保健医療学研究科（博士後期課程）	
	平成24年4月	助産学専攻科	
医学部附属 看護専門学校	昭和39年4月	看護学科	

5 学校・学部・学科等の学生数の状況

（平成24年5月1日現在）

学部・学校名			入学 定員数	収容 定員数	現員数	摘 要
学 部	医学部	医学科	120	720	723	
	歯学部	歯学科	105	630	610	
	薬学部	薬学科（6年制）	200	1,200	1,178	
	保健医療学部	看護学科	95	400	430	
		※3年次編入学	10			
		理学療法学科	30	120	136	
		作業療法学科	30	120	126	
	学部合計(編入学含む)		590	3,190	3,203	
大 学 院	医学研究科		60	240	299	
	歯学研究科		18	72	118	
	薬学研究科（博士前期）		—	—	—	平成22年度募集停止 平成23年4月廃止
	薬学研究科（博士後期）		—	—	8	平成23年度募集停止
	薬学研究科（4年制）		8	32	8	

大学院	保健医療学研究科（博士前期）	10	20	30	
	保健医療学研究科（博士後期）	4	12	6	
	大学院合計	100	376	469	
助産学専攻科		5	5	6	
医学部附属看護専門学校	看護学科	150	450	482	平成22年度入学者から 入学定員を100名から 150名に変更

6 役員の概要

(平成25年3月31日現在)
定員数 理事 10名～13名、監事 2名～3名

区 分	氏 名	常勤・非常勤	摘 要
理事長	小口 勝司	常勤	平成12年4月1日理事就任 平成13年8月1日理事長就任
理 事	片桐 敬	常勤	平成12年4月1日理事就任 平成22年7月28日昭和大学長就任
理 事	有賀 徹	常勤	平成23年4月1日就任
理 事	宮崎 隆	常勤	平成15年4月1日就任
理 事	山元 俊憲	常勤	平成21年3月27日就任
理 事	副島 和彦	常勤	平成20年4月1日就任
理 事	小出 良平	常勤	平成13年5月30日就任
理 事	久光 正	常勤	平成20年4月1日就任
理 事	内田 樹	非常勤	平成23年4月1日就任
理 事	吉田 英機	非常勤	平成20年4月1日就任
理 事	田口 進	常勤	平成20年4月1日就任
理 事	眞田 裕	常勤	平成24年4月1日就任
理 事	新井 一成	常勤	平成24年4月1日就任
監 事	宮坂 貞	非常勤	平成16年4月1日就任
監 事	小林 節	非常勤	平成21年5月29日就任
監 事	細山田 明義	非常勤	平成24年4月1日就任

7 評議員の概要

(平成25年3月31日現在)
定員数 45名～68名

氏 名	寄附行為該当	主な現職等
小口 勝司	第1号評議員	学校法人昭和大学理事長 昭和大学医学部教授
本間 生夫	第1号評議員	昭和大学医学部教授

第1章 法人の概要

氏 名	寄附行為該当	主な現職等
諸星 利男	第1号評議員	昭和大学医学部教授
安本 和正	第1号評議員	昭和大学医学部附属看護専門学校長 昭和大学医学部教授
岡井 崇	第1号評議員	昭和大学医学部教授
有賀 徹	第1号評議員	昭和大学病院長 昭和大学医学部教授
久光 正	第1号評議員	昭和大学医学部長 昭和大学医学部教授
板橋 家頭夫	第1号評議員	昭和大学病院副院長 昭和大学医学部教授
後閑 武彦	第1号評議員	昭和大学医学部教授
向井 美恵	第1号評議員	昭和大学歯学部教授
槇 宏太郎	第1号評議員	昭和大学歯科病院副院長 昭和大学歯学部教授
上條 竜太郎	第1号評議員	昭和大学歯学部教授
荒川 秀俊	第1号評議員	昭和大学薬学部教授
鳥居塚 和生	第1号評議員	昭和大学薬学部教授
伊藤 喬	第1号評議員	昭和大学薬学部教授
菅原 スミ	第1号評議員	昭和大学保健医療学部教授
浅野 和仁	第1号評議員	昭和大学保健医療学部教授
下司 映一	第1号評議員	昭和大学保健医療学部教授
加納 文晶	第1号評議員	昭和大学富士吉田教育部教授
高木 利一	第1号評議員	昭和大学富士吉田教育部教授
南條 文雄	第1号評議員	昭和大学富士吉田教育部教授
市川 幾恵	第1号評議員	学校法人昭和大学統括看護部長
島地 淳	第1号評議員	学校法人昭和大学事務局長
赤堀 明人	第1号評議員	昭和大学学事部長
吉田 文英	第2号評議員	昭和大学名誉教授 昭和大学医学部同窓会長
安井 昭	第2号評議員	昭和大学名誉教授
甲斐 祥生	第2号評議員	昭和大学名誉教授
川澄 正一	第2号評議員	老人保健明陽苑医師
杉崎 徹三	第2号評議員	昭和大学名誉教授
中田 輝夫	第2号評議員	昭和大学医学部客員教授
中島 宏昭	第2号評議員	昭和大学医学部客員教授
大柰 廣伸	第2号評議員	中央大柰整形外科形成外科院長

氏 名	寄附行為該当	主な現職等
筒井 廣明	第2号評議員	昭和大学保健医療学研究科教授
小林 和夫	第2号評議員	国立感染症研究所免疫部長
吉田 篤正	第2号評議員	医療法人弘医会吉田医院院長
田中 一正	第2号評議員	昭和大学富士吉田教育部教授
米山 啓一郎	第2号評議員	昭和大学教授
新井 平八郎	第2号評議員	昭和大学薬学部同窓会長
山藤 武久	第2号評議員	学校法人昭和医療技術専門学校相談役
塩原 仁子	第2号評議員	昭和大学キャリア支援室教育支援職員
野中 明人	第2号評議員	(株) 大和調剤センター代表取締役 (株) 健晴代表取締役社長
稲垣 昌博	第2号評議員	昭和大学富士吉田教育部教授 (員外)
飯島 裕之	第2号評議員	飯島歯科医院院長 昭和大学歯学部同窓会長
徳岡 敏一	第2号評議員	徳岡歯科クリニック院長
大谷 俊一	第2号評議員	大谷歯科医院院長
仲保 徹	第2号評議員	群馬・パース大学保健科学部講師
片桐 敬	第3号評議員	昭和大学学長 昭和大学名誉教授
宮崎 隆	第4号評議員	昭和大学歯学部長 昭和大学歯学部教授
山元 俊憲	第4号評議員	昭和大学薬学部長 昭和大学薬学部教授
副島 和彦	第4号評議員	昭和大学保健医療学部長 昭和大学保健医療学部教授
眞田 裕	第4号評議員	昭和大学藤が丘病院長 昭和大学医学部教授
嶽山 陽一	第4号評議員	昭和大学藤が丘リハビリテーション病院長 昭和大学医学部教授
田口 進	第4号評議員	昭和大学横浜市北部病院長
松川 正明	第4号評議員	昭和大学附属豊洲病院長 昭和大学医学部教授
加藤 進昌	第4号評議員	昭和大学附属烏山病院長 昭和大学大学院保健医療学研究科教授
岡野 友宏	第4号評議員	昭和大学歯科病院長 昭和大学歯学部教授
鬼塚 卓彌	第5号評議員	昭和大学名誉教授 学校法人昭和大学顧問
高場 利博	第5号評議員	昭和大学名誉教授 学校法人昭和大学顧問
後藤 延一	第5号評議員	昭和大学名誉教授
芳根 鋭蔵	第5号評議員	(株) フジ産業取締役会長
塩川 朋義	第5号評議員	

第1章 法人の概要

氏 名	寄附行為該当	主な現職等
小出 良平	第5号評議員	昭和大学富士吉田教育部長 昭和大学名誉教授
上條 由美	第5号評議員	昭和大学大学院保健医療学研究科准教授
川上 保雄	第6号評議員	昭和大学名誉教授 学校法人昭和大学顧問
石井 暢	第6号評議員	昭和大学名誉教授 学校法人昭和大学顧問
佐藤 彰	第6号評議員	小淀診療所所長 学校法人昭和大学顧問
松田 厚恵	第6号評議員	昭和大学医学部客員教授
鎬木 衡平	第6号評議員	(有) アイ・ティエス代表取締役

8 職員の概要

1. 教育職員数

(平成24年5月1日現在)

学校・学部等	専任教育職員数							兼任
	学長	教授	准教授	講師	助教	教育職員	合計	
医学部	1	81	106	159	881	0	1,228	114
歯学部	0	24	22	40	161	0	247	81
薬学部	0	17	21	19	53	0	110	45
保健医療学部	0	20	17	43	1	0	81	48
医学部附属看護専門学校	0	0	0	0	0	23	23	30
合 計	1	142	166	261	1,096	23	1,689	318

2. 職員数

(平成24年5月1日現在)

学校・学部等	事務系	教務系	厚生 補導系	技術 技能系	医療系	その他	合計	兼務
法人部門	27	0	0	1	0	0	28	0
昭和大学医学部	41	13	8	7	0	0	69	0
昭和大学歯学部	39	1	3	2	0	0	45	0
昭和大学薬学部	45	3	7	6	0	0	61	0
昭和大学保健医療学部	32	3	3	8	0	0	46	0
昭和大学医学部附属看護専門学校	4	0	0	0	0	0	4	0
昭和大学病院	156	0	0	2	1,181	5	1,344	0
昭和大学病院附属東病院	32	0	0	0	184	2	218	0
昭和大学藤が丘病院	89	0	0	6	815	1	911	0
昭和大学藤が丘リハビリテーション病院	14	0	0	1	168	0	183	0
昭和大学横浜市北部病院	54	0	0	0	832	0	886	0
昭和大学附属豊洲病院	22	0	0	1	153	2	178	0
昭和大学附属烏山病院	17	0	0	3	196	5	221	0
昭和大学豊洲クリニック	4	0	0	0	15	0	19	0
昭和大学歯科病院	34	0	0	1	89	2	126	0
合 計	610	20	21	38	3,633	17	4,339	0

9 志願者数、合格者数、入学者数（平成24年度入学者）

学部・学校名			入学定員数	志願者数	合格者数	入学者数
学部	医学部	医学科	120	4,391	311	116
	歯学部	歯学科	105	466	181	96
	薬学部 ※6年制	薬学科	200	1,803	393	187
	保健医療学部	看護学科	95	785	212	107
		(3年次編入学)	(10)	(14)	(11)	(7)
		理学療法学科	30	336	69	36
		作業療法学科	30	121	58	28
	学部合計 (編入学)		580 (10)	7,902 (14)	1,224 (11)	570 (7)
大学院	医学研究科		60	52	50	50
	歯学研究科		18	41	41	40
	薬学研究科（4年制）		8	9	9	8
	保健医療学研究科（博士前期）		10	18	14	14
	保健医療学研究科（博士後期）		4	8	6	6
	大学院合計		100	128	120	118
助産学専攻科			5	6	6	6
医学部附属看護専門学校		看護学科	150	1,279	488	160

10 卒業・修了者数（平成24年度）

1. 学部

学部	学科	卒業者数
医学部	医学科	113
歯学部	歯学科	92
薬学部（6年制）	薬学科	180
保健医療学部	看護学科	105
	理学療法学科	29
	作業療法学科	24
合 計		543

2. 大学院

研究科	修了者数
医学研究科	55
歯学研究科	28
薬学研究科	3
保健医療学研究科	13
合 計	99

3. 専攻科

専攻科	修了者数
助産学専攻科	4

第1章 法人の概要

4. 附属学校

学校名	卒業生数
医学部附属看護専門学校	137

11 国家試験結果（平成25年）

1. 学部

①第107回医師国家試験（合格発表：平成25年3月19日）

	新卒	既卒	総数	全国	全私立大学
受験者数	113	9	122	8,569	3,225
合格者数	108	6	114	7,696	2,868
合格率	95.6%	66.7%	93.4%	89.8%	88.9%

②第106回歯科医師国家試験（合格発表：平成25年3月19日）

	新卒	既卒	総数	全国	全私立大学
受験者数	92	27	119	3,321	2,517
合格者数	75	21	96	2,366	1,692
合格率	81.5%	77.8%	80.7%	71.2%	67.2%

③第98回薬剤師国家試験（合格発表：平成25年3月29日）

	新卒	既卒	総数	全国	全私立大学
受験者数	186	6	192	11,288	10,449
合格者数	161	3	164	8,929	8,243
合格率	86.6%	50.0%	85.4%	79.1%	78.9%

④第102回看護師国家試験（合格発表：平成25年3月25日）

	新卒	既卒	総数	全国（大学）
受験者数	100	7	107	14,672
合格者数	92	4	96	13,913
合格率	92.0%	57.1%	89.7%	94.8%

⑤第99回保健師国家試験（合格発表：平成25年3月25日）

	新卒	既卒	総数	全国（大学）
受験者数	100	23	123	15,318
合格者数	94	18	112	14,748
合格率	94.0%	78.3%	91.1%	96.3%

⑥第96回助産師国家試験（合格発表：平成25年3月25日）

	新卒	既卒	総数	全国（大学）
受験者数	1	0	1	1,072
合格者数	1	0	1	1,051
合格率	100.0%	—	100.0%	98.0%

⑦第48回理学療法士国家試験（合格発表：平成25年3月29日）

	新卒	既卒	総数	全国
受験者数	29	2	31	11,391
合格者数	29	1	30	10,104
合格率	100.0%	50.0%	96.8%	88.7%

⑧第48回作業療法士国家試験（合格発表：平成25年3月29日）

	新卒	既卒	総数	全国
受験者数	24	5	29	5,279
合格者数	22	4	26	4,079
合格率	91.7%	80.0%	89.7%	77.3%

2. 専攻科

①第96回助産師国家試験（合格発表：平成25年3月25日）

【助産学専攻科】

	新卒	既卒	総数	全国（大学）
受験者数	4	0	4	1,072
合格者数	3	0	3	1,051
合格率	75.0%	—	75.0%	98.0%

3. 附属学校

①第102回看護師国家試験（合格発表：平成25年3月25日）

【医学部附属看護専門学校】

	新卒	既卒	総数	全国
受験者数	137	4	141	56,530
合格者数	137	4	141	50,224
合格率	100.0%	100.0%	100.0%	88.8%

第2章 事業の概要

第1部 平成24年度事業計画実施報告

(重点目標と主要事業)

1 教育の充実

1. 学部内組織の再編

(1) 医学部、歯学部及び薬学部の講座再編

医学部、歯学部及び薬学部において大講座部門制に組織再編したことにより、今まで分散していた力を効果的に集約でき、教育・研究・診療・人材交流の推進が図られました。

2. 学士課程教育の充実

(1) 初年次教育の充実

これまで検討及び導入してきた初年次学部連携教育のカリキュラムに関する有用性、有効性について学生教育委員・教育職員並びに事務職員によるワークショップを開催するとともに、学生授業評価アンケートを実施しました。これらにより得られたデータ・改善点を次年度の連携教育実施時に活かすため、検討しました。

また、各学部とも初年次における専門教育への導入として、専門基礎科目を新たに開講しました。初年次の段階から専門的な学習内容に触れる機会を増やすことによって、専門領域への円滑な移行と基礎的な学習への主体的な取り組みの促進を図りました。

(2) 教育プログラムの充実

各学部において、優れた医療人の育成に向けたカリキュラムの充実に努めました。医学部、歯学部では診療参加型臨床実習の推進、薬学部では6年制教育課程のカリキュラム改善に向けたワークショップを実施しました。保健医療学部では保健師教育課程を選択制とした新カリキュラムの体制整備を行いました。

(3) 昭和大学看護キャリア開発・研究センターの運用開始

看護管理者認定制度教育課程ファーストレベルを10月に開講し、23名の受講生が7科目を150時間受講し、2月に修了しました。また、13学会に発表した25題の看護研究の評価会を開催し、最優秀研究に研究業績賞を授与しました。

3. 大学院課程教育の充実

(1) 薬学研究科4年制博士課程の設置

本年度より開設した薬学研究科4年制博士課程に8名が入学し、1年次の科目群をシラバスに従い開講、実施しました。

(2) 保健医療学研究科の充実

保健医療学研究科博士前期(修士)課程では、高い専門性に基づく臨床実践及び臨床研究でリーダーシップを発揮し、チーム医療を推進することのできる人材を養成するため、専門看護師教育課程（老年看護学及び精神看護学の2分野）の教育を開始しました。更に、平成24年度後期から診療放射線領域の教育課程を開始しました。平成25年度後期から開始予定の臨床栄養学領域（仮称）及び臨床検査学領域（仮称）の教育課程設置に向けた準備に取り組みました。

保健医療学研究科博士後期（博士）課程では、保健医療学領域の教育・研究者を育成するため、生体機能・形態解析領域、内部障害リハビリテーション領域、精神障害リハビリテーション領域及び運動障害リハビリテーション領域の4領域の教育を開始しました。

4. 助産学専攻科の設置

保健医療の向上並びに地域医療施設での慢性的な助産師不足の解消を目的に、助産学専攻科（1年制）において助産師課程の教育を開始しました。

5. 学生支援

(1) 学生生活の充実

8月から9月に平成24年度（第2回）学生総合意識調査を全学的規模で実施しました。この調査は、本学学生の意識・生活実態を定点観測し分析することを通じて、学生の満足度を高める教育・学生生活・環境を創出していくことを目的として行われ、調査回収率は98.9%でした。

主な改善項目として、持ち運びやすさと利便性を考慮し、次年度からのシラバス、学生生活ガイドの電子化に向けた準備を行いました。更に、図書館の平日・土曜の開館時間の延長、日曜・祝日の開館に向けて円滑に運営できるよう、学生課職員を配置する等の準備を行いました。

また、1号館地下にある学生職員食堂を第2学生ホールと名称変更し、座席数の増加、多目的利用化の推進、快適な環境・雰囲気の創出を目的とした内装変更、食事供給方式の見直し等の観点による改修工事を実施しました。

本年度の調査結果を更に分析し、重点改善項目を抽出して、学生生活の向上及び教育環境整備に引き続き取り組みます。

(2) 奨学金制度の拡大

昭和大学大学院奨学金給付規程を改正し、給付の対象を従来の薬学研究科及び保健医療学研究科だけでなく、医学研究科及び歯学研究科に在籍する外国籍の学生のうち、日本に基盤を有しない者も追加し、学生支援の強化を図りました。

2 研究の充実

1. 昭和大学臨床薬理研究センター研究環境整備

臨床薬理学研究の拠点整備を進めるにあたり、大学病院を中心に附属病院8病院の臨床試験支援センター（室）スタッフを集結し、合同会議を開催しました。本会議の開催によって臨床研究の運用における統一化等、附属病院の連携が強化されました。

2. 研究活動の推進

(1) 研究支援

研究推進室に、研究倫理及び生物統計の専門家を配置し、全学的な研究支援の体制を整え、研究の相談・論文作成の補助等を行いました。

また、「企業・大学間連携の共同研究事業」では、昨年度からの継続も含め11機関と協定を締結しました。

(2) 競争的研究資金の獲得

文部科学省の新規支援事業では、「大学間連携共同教育推進事業」において、本学歯学部、北海道医療大学、岩手医科大学との共同による、各大学と密接な関係を持つ歯科医師会が連携して構築する「ITを活用した超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の養成」プログラムが採択されました。また、「専門的看護師・薬剤師等医療人材養成事業」において、薬学部の「地域医療に貢献する臨床指導薬剤師の育成」プログラムが採択されました。

文部科学省の戦略的研究基盤形成支援事業では、歯学部の「次世代型口腔組織再生医療の研究開発拠点形成」プロジェクト、腫瘍分子生物学研究所の「新たなパラダイムに基づく悪性腫瘍の個別化診断・治療法の研究基盤構築」プロジェクトが採択されました。

経済産業省の委託支援事業では、「課題解決型医療機器等開発事業」において、歯学部の「インプラント周囲炎の治療を可能にする流水式超音波歯垢除去器の開発」の計画が採択されました。

日本私立学校振興・共済事業団の補助事業では、「学術研究振興資金」において歯学部の「唾液腺機能障害の分子機構解明と機能回復を目指した先端的研究」が採択されました。

3 国際交流

1. 国際交流の発展的展開

(1) 国際交流活動の充実・強化

本年度は9名の招聘研究者と31名の学部・大学院留学生を受け入れました。また、姉妹校であるポートランド州立大学（米国）を始め、6か国の大学や医療機関で80名の学生が実習・研修に参加しました。

職員については、17名の教育職員が海外の大学や研究・医療機関に留学しました。

さらに医学部が台北医科大学（台湾）と学部間協定を締結しました。

(2) 学部留学生及び大学院留学生等の受入れの環境整備

15号館に外国人宿舎を移設し、部屋数を増加させ、留学生の受入拡大を図りました。この15号館には国際交流センターの事務所が設置されており、留学生の様々な要望により多く対応することができました。

また、協定校であるウィーン医科大学やオルバニー薬科大学等から留学生を迎え、各々のニーズにあった教育プログラムを提供しました。

4 附属学校の活性化

1. 医学部附属看護専門学校の充実

各学年で担当教員を設け、生活指導・学習指導の充実に努めました。また、12月8日に昭和大学看護教育80年・医学部附属看護専門学校50年記念式典・祝賀会を執り行いました。

5 附属病院

1. 病院経営の活性化

平成24年度も各附属病院において、医療を通じて国民の健康増進と福祉に貢献すべく、尽力しました。

昭和大学病院、藤が丘病院、横浜市北部病院の3病院に組織的なベッドコントロール管理を実現するため、ベッドコントロール管理室を設置しました。管理室にベッドコントロールに関する全ての権限を持たせたことにより、各病院とも病床稼働率の向上が図られました。

また、3病院のCT・MRI検査を土曜の午後にも実施し、待ち日数の短縮及び高額検査機器の有効活用が促進され、患者の利便性及び経営の活性化が図られました。

2. 地域医療連携の推進

昭和大学病院、藤が丘病院、横浜市北部病院の3病院では、地域医療機関への逆紹介を通じて、高度・急性期医療を担う地域の中核病院として機能分担を推進しました。また、3病院とも地域医療機関に向けて医療セミナーを開催しました。

3. 診療科のセンター化推進

より効率的な診療組織を構築するため、藤が丘病院、藤が丘リハビリテーション病院、横浜市北部病院の横浜3病院の診療機能の再編成を行いました。藤が丘病院小児外科と横浜市北部病院こどもセンター（小児外科）を統合し、横浜市北部病院に集約しました。また、泌尿器科においては、昭和大学病院では前立腺密封小線源療法、藤が丘病院では前立腺がんやEDの治療、横浜市北部病院では女性骨盤底再建センターでの治療など、特色ある診療体制に整備しました。

4. 新豊洲病院（仮称）整備事業

平成23年7月に着工した新病院の整備事業は、予定通り平成25年12月の竣工に向けて建設工事を進めています。新病院は名称を「昭和大学江東豊洲病院」として平成26年3月24日の診療開始を予定しています。

また、看護師寮の建設工事も、平成26年3月竣工を目指し平成24年12月に着工しました。

6 管理運営の充実

1. 管理運営体制の整備と円滑な大学運営

(1) 活性化推進の活動

本年度は、法人・大学活性化推進委員会に4つ、病院活性化推進委員会に6つのプロジェクトを設置し、これらのプロジェクトからの答申を法人・大学及び病院の運営方針に反映させました。

【法人・大学活性化推進委員会】

① 保健医療学研究科臨床栄養学コース設置検討プロジェクト 保健医療学研究科に臨床栄養学コースを設置することを検討する。
② 大学図書館運用見直しプロジェクト 学生の利便性を考慮した図書館の運用を検討する。
③ 大学学生職員食堂あり方プロジェクト 学生職員食堂のあり方について検討する。
④ 昭友商事あり方プロジェクト 昭友商事のあり方について検討する。

【病院活性化推進委員会】

① 土日診療体制週日化プロジェクト 土日の診療体制週日化へ向けて検討する。
② 昭和大学病院退院促進戦略プロジェクト 退院促進に向けた戦略を検討する。
③ 昭和大学病院ERあり方検証プロジェクト 平成22年度「ERあり方検討プロジェクト」の答申の昭和大学病院における実施状況について検証し、改善につなげる。
④ 昭和大学病院がんサポート設置プロジェクト がんサポートの設置を検討する。
⑤ ME組織・業務のあり方と一元化プロジェクト MEの組織・業務のあり方について検討し、一元化を図る。
⑥ 関連病院あり方プロジェクト 大学として関連病院とのあり方について検討する。

(2) 自己点検・評価活動の推進

全学的に自己点検・自己評価を実施し、その結果を9月に「平成20・21・22・23年度自己点検・自己評価報告書」として刊行しました。評価により抽出された問題点の改善・改革案を、今後の中期的な課題として見直し、教育・研究活動の充実に向け取り組みを開始しました。

(3) 財政基盤の充実と強化

財政健全化に向け、管理運営体制の整備、中長期計画に基づいた施設整備・機器購入、病院機能の改善、補助金等外部資金の獲得拡大、資産運用の安全性の確保と効率的な運用等による取り組みを行いました。

(4) 寄付金募集活動の強化

寄付金制度を「昭和大学サポート寄付金」として一新し、パンフレットを新たに作成しました。職員、同窓生、学生父母への案内、施設内での設置、各種行事における配布等の募集活動を実施しました。

(5) 至誠塾の開講

本学の継続的な発展を期し、これを担う職員を育成するため、平成21年度より開塾した至誠塾は、本年度、第4期塾生として14名が入塾し、大学運営に必要な知識等について学修を行いました。

【講義内容】

回	内 容	回	内 容
1	入塾式	17	事業計画と予算
2	オリエンテーション	18	労働条件と法律
3	建学の精神と大学の歴史	19	人事管理
4	昭和大学学則と関連する法律 大学及び大学院設置基準	20	危機管理
5	学校法人昭和大学寄附行為と関連する法律	21	資産運用と法律
6	富士吉田全寮制度と昭和大学	22	一般補助・特別補助と競争的研究資金
7	昭和大学教育の理念	23	不動産と法律
8	学生支援	24	トピックス
9	入学者選抜	25	病院運営Ⅰ
10	カリキュラムプランニングⅠ	26	大学・病院活性化プロジェクト
11	カリキュラムプランニングⅡ	27	大学、病院の広報
12	トピックス	28	地域医療連携と病院医療体制
13	大学組織と意思決定	29	ボランティア
14	設備保守と整備計画	30	病院運営Ⅱ
15	決算書の見方Ⅰ	31	至誠塾2年次のテーマ
16	決算書の見方Ⅱ	32	修了式

第2章 事業の概要

2. 施設設備の整備・活用

(1) 教育環境の整備

旗の台キャンパスでは、3号館の高架水槽更新工事、1号館の5・6階トイレ改修工事を行い、安心・安全なキャンパス環境の充実を図りました。また、講義室・実習室の整備として、5号館3・4階の実習室実験台入れ替え工事、大学2号館の第1・2・6講義室マルチメディア教育システム設置工事、看護専門学校の空調システム更新工事を行い教育環境の整備を行いました。

富士吉田キャンパス自然教育園整備事業では、耕作地の整備等を行いました。

(2) 学内情報基盤環境の整備

学内情報基盤整備の一環として、学内情報共有基盤システムの構築、シングルサインオン構築、国立情報学研究所の学術認証フェデレーションへの登録、サーバー環境の統合を行いました。

(3) 本法人近隣地取得計画

本法人の将来の様々な事業活動の可能性を考慮し、本年度も本法人近隣地の取得を計画的に実施しました。

【資産取得（校地）】

藤が丘病院 近隣地 ハローウエスト藤が丘	
所 在 地 番 地 目 地 積 原 因	神奈川県横浜市青葉区藤が丘二丁目 3 番 9 山林 353 m ² 平成 24 年 8 月 29 日 売買取得

旗の台校舎 近隣地	
所 在 地 番 地 目 地 積 原 因	東京都品川区旗の台一丁目 164 番 10 宅地 157.23 m ² 平成 24 年 10 月 31 日 売買取得

【資産取得（校舎）】

藤が丘病院 近隣地 ハローウエスト藤が丘	
所 在 家屋番号 延床面積 原 因	神奈川県横浜市青葉区藤が丘二丁目 3 番地 9 3 番 9 704.70 m ² 平成 24 年 8 月 29 日 売買取得

3. 福利厚生の充実

(1) 公認サークルの設置

平成23年度から設置された公認サークルは、本年度、110団体による活動が行われ、多職種の職員の親睦が図られました。

(2) 学生・職員食堂の整備

平成24年度「大学学生職員食堂あり方プロジェクト」の答申に基づき、旗の台キャンパス1号館地下1階学生職員食堂の改装工事を行い、座席の増設、学生の自習スペースの確保、学生・職員がミーティング等を行える多目的利用が可能な施設として再整備しました。また、食堂以外の新たな昼食提供として、旗の台キャンパス中庭において移動販売車による昼食の提供を開始しました。

4. 広報活動・学生募集活動の充実

(1) 広報体制の確立・学生募集活動の充実

従来の広報業務とホームページ管理業務を統合し、昭和大学新聞、EDUCE（エデュース）及びホームページをより効果的に活用した広報体制を確立しました。また、テレビ・ラジオCMの放送、特別番組「夢の力」第2弾の放送など、本学の認知度向上に努めました。

(2) WEBサイトの充実

平成22年度から続けてきたホームページの再構築は、藤が丘病院、横浜市北部病院が完了しました。その結果、大学及び各附属施設のホームページのデザイン統一化、管理システムの一元化が実現されました。

第2部（本学の事業）

1 教育・研究の充実

1. 医学部・医学研究科

(1) 教育

医学部では、各講義に随時形成評価を採用し、学習の効果を高めました。2年次から4年次の定期試験において記述式問題を採用し、論理的な記述能力の向上を図りました。

臨床実習では、診療行為や診療器具について実習時の指導を強化し、確実な知識となるように努めました。また、国家試験予備校講師による特別講義と、東邦大学と合同での強化合宿を行いました。

前年度から鋭意準備を進めてきました(財)医学教育振興財団主催の「第32回国内医科大学視察と討論の会」を、9月20日・21日に当番校として開催しました。全国80大学から多数の教育担当者が参加し、「今求められる全寮制教育」「体系的・段階的な4学部連携教育」「国際交流のすすめ」「フォローアップ型地域医療実習」の4つのテーマで、講演と活発な討論がなされました。教育職員と学生を含めた昭和大学の医学教育の充実について高く評価されました。

(2) 研究

医学研究科では、前年度から開講したMulti Doctorプログラム 医学研究科コース(科目等履修生制度)は、5年生で共通科目6単位を取得する学生がいる等、学習意欲の強い学生のニーズに十分に応えた制度として確立されました。

また、臨床系研究科学生より広範な臨床経験の促進を図るため、研究科学生が教育職員同様に学外研修制度を活用できるよう、規程・内規を整備しました。

(3) 卒後教育

4月に初期臨床研修医のオリエンテーションを行い、昭和大学での臨床研修の概要・研修の基本について説明し、演習を行いました。

初期臨床研修病院紹介レジナビフェアに参加し、派遣した指導医と研修医から、来訪した合計147名の学生に対して昭和大学の研修の現状について説明がなされました。

初期臨床研修医の採用には152名の応募があり、8月に入職試験を実施しました。

臨床研修指導医講習会を6月と9月の2回開催し、合計63名の指導医が誕生しました。

昭和大学・山王台医療技術内視鏡トレーニングセンターでは、4～6月にかけて計4回、25名が参加して医学部6年生の選択実習を行い、2月には19名が参加して5大学連携事業である胸腔鏡手術の講習会を行う等、卒前・卒後教育の充実を図りました。

後期臨床研修については、研修期間1年間の「内科臨床研修医制度」を立ち上げ、専門医資格取得を見据え、分野の枠を超えた内科研修制度を策定しました。

卒後教育の充実を目的として平成22年度に整備した学外研修制度については、研修効果をより高めるため、制度の確立を目指して規程等の再整備を行い、運用の充実を図りました。

2. 歯学部・歯学研究科

(1) 教育

歯学部では、臨床各科における実習体制を整備して診療参加型臨床実習の推進を図るとともに、スキルスラボの整備によりシミュレーション実習の充実も図りました。その成果をみるiOCSCAを本年度も実施しました。また、2年次を3期制にして、学生の学力向上のための評価の機会を増やしました。試験問題成績統合管理システムを2年次から5年次までの進級試験に導入し、試験問題の作問、集計、分析、結果報告を行いました。さらに、大学の教育ワークショップや試験問題作成ワークショップ等で教育職員の教育力の向上を図りました。

歯学研究科では、単位制度を整備し、他研究科との整合性を持たせ、講座・研究科の枠を超えた履修を可能としました。また、英語教育の充実を図りました。専門性の高い先進的な医療を担う医療人を養成するために、次年度からの施行に向け、専門医コースについて検討しました。更に、効率的な学位申請・審査のために、学位申請書類の書式を他研究科と統一し、簡略化を図りました。

(2) 研究

歯学研究科では本年度、日本私立学校振興・共済事業団の学術研究振興資金の採択を受け、「唾液腺機能障害の分子機構解明と機能回復を目指した先端的研究」と題する研究を開始しました。唾液並びに唾液腺研究を将来の歯学研究科のメインテーマの一つと位置付け、文部科学省戦略的研究基盤形成支援事業に、「唾液を標的としたプロテオミクス・メタボロミクス医療研究拠点の基盤形成」の申請を行いました。

また、研究費補助金の採択率向上を目指し、申請書作成に関する講演会を例年通り開催しました。なお、本年度の歯学研究科の科研費採択件数は109件でした（昨年度は100件）。

(3) 卒後教育

卒後臨床研修における歯科医師としてのプロフェッショナリズムを涵養するために、各部署での研修期間を最短でも6カ月にして、指導医や患者と十分にコミュニケーションをとる研修を実施しました。さらに短期必修研修として、①患者さんに安心安全な医療を提供するための全身管理研修、②チーム医療への参画能力育成のための口腔ケア研修、③診察診断能力向上のための画像診断研修を1週間ずつ実施しました。

3. 薬学部・薬学研究科

(1) 教育

薬学部では、初年次教育と2年次以降の専門教育を円滑につなげるために、新2年生を対象に8日間のオリエンテーションを実施しました。また、6年制教育課程を検証するためのプロジェクト委員会として実習・演習検討委員会と教育部学部連携推進委員会を設置し、教育内容と成果について検証しました。検証結果を反映したカリキュラムの改善策は、学部内ワークショップで検討し、平成25年度の第2学年より年次進行で実施することとしました。

本年度より講座再編を実施し、同一学問領域の教育職員連携を強化して、講義、演習及び実習の指導体制を充実しました。

第2章 事業の概要

薬学研究科では、本年度から新たな4年制博士課程を開設し、8名が入学しました。届出に記載した1年次の科目群をシラバスに従い開講、実施しました。また、旧3年制博士課程の研究科学生に対してもシラバスに従って科目を実施し、博士論文の発表、審査委員会による審査、研究科教授会での最終判定後に3年生4名に対し博士号を授与しました。学部生を対象とした大学院 Multi Doctor プログラムについては、学部3年生を対象に、先行して大学院科目が受講できることを説明し、次年度のプログラム受講希望者に対して口頭試問等を行い科目履修生の選考を行いました。

(2) 研究

私立大学戦略的研究基盤形成事業の計画に沿って、オールインワン蛍光顕微鏡、マイクロサスペンションレイシシステム、マルチプレートリーダーの3件の研究設備を購入し、研究基盤の充実を図りました。3年目を迎えた同事業は、平成22年度が21報、平成23年度が22報、平成24年度は9月の時点で22報と増加傾向を示しており、本事業の成果が認められました。また、1月には、同事業の成果報告会を行いました。

6月に薬学セミナーを、10月に本学が主管校として第56回日本薬学会関東支部大会を開催しました。

昭和大学薬学雑誌第3巻の1・2号を、それぞれ6月・12月に発刊しました。

(3) 卒後教育

本年度は薬学部卒後教育セミナーを3回開催しました。第1回は6月に講演会形式のセミナー、第2・3回は11月・3月に平成24年度文部科学省「専門的看護師・薬剤師等医療人材養成事業」選定プロジェクトに選定された「地域医療に貢献する臨床指導薬剤師育成プログラム」の参加型研修として、新時代の薬剤師の持つべきスキルの新たな開発プログラムを構築し、本学卒業生を含む多くの薬剤師が参加しました。

本年度の薬剤部レジデント研修制度は、6年制薬学部の卒業生を初めて受け入れました。昭和大学ならではの高度医療とチーム医療を学習する病棟研修を中心とした年間スケジュールを構築し、20人のレジデントがファシリテーターの指導の下、積極的に参加型研修を行い、新時代の病院薬剤師としての高度な職能を習得しました。

また、病院薬剤学講座教育職員の卒後教育を充実させるため学外研修・学外研修指導に関する規程を整備しました。

4. 保健医療学部・保健医療学研究科

(1) 教育

保健医療学部では、本年度入学生から保健師助産師看護師学校養成所指定規則改正に伴い、保健師教育課程を選択制とした新カリキュラムで看護師教育を開始すると同時に、2～4年生が対象となる現カリキュラムについても円滑に運用できるよう万全の体制を整えました。看護学科3年生を対象とした臨床看護学講師（臨床教育職員）による病院実習を開始しました。また、附属病院における理学療法学科及び作業療法学科の卒前病院実習を充実させるための方策を検討するワークショップを1月に実施し、次年度以降の実習計画を策定しました。3年生から国家試験対策を実施し、国家試験合格率の向上に努めました。

保健医療学研究科博士前期(修士)課程では、高い専門性に基づく臨床実践及び臨床研究でリーダーシップを発揮し、チーム医療を推進することのできる人材を養成するために、4月から専門看護師教育課程（老年看護学及び精神看護学の2分野）の教育を開始し、1月に専門看護師教育課程が認定されました。更に診療放射線領域の教育課程を本年度後期から開始しました。あわせて、臨床栄養学領域（仮称）及び臨床検査学領域（仮称）の教育課程を次年度後期から設置する準備に着手しました。

保健医療学研究科博士後期(博士)課程（定員4名・平成23年10月24日認可）では、春季・秋季併せて8名が入学し、生体機能・形態解析領域、内部障害リハビリテーション領域、精神障害リハビリテーション領域及び運動障害リハビリテーション領域の4領域の教育を開始しました。

また、看護キャリア開発・研究センターで行われた認定看護管理者教育課程ファーストレベルの教育並びにセカンドレベル教育課程の設置準備に参画しました。

(2) 研究

各教育職員の研究をより一層推し進め、研究推進室との連携により研究活動の充実を図り、学科の垣根を越えた研究グループの活性化や、他学部との共同研究を推進するために教育職員及び大学院生による研究発表会（4月、11月、2月）を実施し、研究活動の充実と共同研究を推進しました。また質的研究について「質的研究の特徴と質評価」の講演会を8月に開催しました。臨床教育職員の研究支援、昭和大学附属病院との連携による臨床研究の推進を行い、昭和大学保健医療学雑誌及び業績集を発行しました。

(3) 卒後教育

看護学科では看護師実習指導者講習会を実施し、実習指導者として必要な知識・技能を教授し、臨地実習の充実・向上を図りました。理学療法学科では理学療法懇話会を開催し、講演及び教育研究発表を行いました。作業療法学科では昭和作業療法卒後教育セミナーを2回開催し、臨床実習指導者のためのワークショップ、講演及び教育研究発表を行いました。

また、介護実践者向けブラッシュアップ実践セミナーの開催及び訪問看護研修会において「看護倫理と基礎教育・大学院教育で今取り組むべきこと」について講演を行いました。

5. 富士吉田教育部

(1) 教育

学生が初年次での修学から専門領域での修学へ円滑に移行できるように、学生指導のあり方を再検討することを目的として、保健医療学部との合同ワークショップを行いました。このなかで「基礎学力向上のための教育方略」のテーマについて議論を重ねた結果、双方の求める教育のあり方に関して共通認識を持つことができました。また、各学部学生が2年次以降に履修する専門科目の学習に必要な知識、技能の効率的な習得のために、実習科目の実施内容について再検討し、次年度以降のサイエンス系実習の内容、スケジュールの再編成を行いました。

更に、次年度からの最終試験制度の廃止に伴う留年者増加を防ぐために、学生への学習指導のあり方について検討を始めました。

第2章 事業の概要

(2) その他

教育施設、設備の再点検に基づき、教室については、老朽化したプロジェクターの交換を順次行っています。また、学生寮の学習環境を整備するために、百合寮内の学習室、共同学習室の机、椅子、書棚を更新しました。

自然教育園については、6月に学生参加の開園式を開催した後、井戸の採掘、上下水道の設置等、本格的な稼働に向けた準備を進めるとともに、食用植物の苗木を植える等、実際の運用も開始しました。

6. 研究所・共同施設

(1) 腫瘍分子生物学研究所

私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「新たなパラダイムに基づく悪性腫瘍の個別化診断・治療法の研究基盤構築」が文部科学省より採択され、本年度より医・歯・薬学部に関連教室と連携を図りながら研究を行っています。

医学研究科の大学院生を対象とした腫瘍分子研セミナーを11回開催し、本研究所職員が担当する他、学内外から6名の講師を招きました。

また、昨年度に引き続き各種研究を行い、国内外における学会発表・論文発表を行いました。

(2) 動物実験施設

平成22年度開始の飼育器材の更新計画（4カ年計画）を平成29年までの8カ年計画に変更し、平行してマウス・ラットのラミナーフローラックブローの点検・更新計画（平成24～26年）を開始しました。また、平成17年度に導入した入室管理（顔認証）システムの更新を行いました。

動物実験委員会と協力して、動物実験計画書審査に関する業務、動物実験実施者の研修会・説明会、年報作成を行いました。

なお、動物実験施設の利用状況は、医学部：25研究室187名、歯学部：16研究室101名、薬学部：13研究室65名、他2研究室5名の計：56研究室・358名でした。

(3) 1号館RI 共同研究室

本年度、本研究室を利用した放射線業務従事者は、医学部基礎系教室、歯学部基礎系教室、薬学部、及び腫瘍分子生物学研究所に所属する職員・学生31人でした。放射性同位元素の使用・保管量の確認、放射線業務従事者の健康診断、教育・訓練、個人被曝線量のモニタリング、作業環境における放射性同位元素のモニタリングを行いました。

(4) 遺伝子組換え実験室

本年度は遺伝子導入システムの導入、既設の共通機器の取扱い説明やメンテナンスを行うとともに、11月にリアルタイムPCRセミナーを開催しました。6月の動物実験実施者研修会では「遺伝子組換え実験を含む動物実験」、カルタヘナ法の遵守について説明・周知を行い、12月の説明会では、第二種使用等拡散防止措置計画申請書について説明を行いました。また、研究支援を行う他、バイオセーフティ委員会のサポートとして、遺伝子組換え実験の計画書の申請窓口、遺伝子組換え体の譲渡等の把握、病原体等保持・管理状況の把握、及びバイオセーフティ実験

室の把握等を行いました。

なお、利用登録者数は、医学部：7教室39名、歯学部：5教室34名、薬学部：6教室34名、他2研究室5名の計20研究室112名でした。

(5) 基礎電子顕微鏡室

本年度新規事業として、電顕室のバイオイメージング第1実験室にCellKey 96/384 System 及び LMD7000 形レーザーマイクロダイセクションが文部科学省の平成24年度私立学校施設整備費補助金により新たに設置されました。なお、本年度の基礎電子顕微鏡室使用講座及び登録者数は、医学部：15教室64名、歯学部：9教室51名、薬学部：6教室16名の合計30教室131名となりました。

2 学生・卒業生支援

1. 奨学金

本学独自の奨学金制度である学校法人昭和大学奨学金（学部生対象・無利子貸与）は、応募者48名、採用者43名でした。また昭和大学父兄互助会奨学金（学部生対象・無利子貸与）は、応募者8名全員が採用されました。昭和大学大学院奨学金（大学院生対象・給付）も、応募者58名全員が採用されました。

日本学生支援機構奨学金は、学部生と大学院生を合わせて応募者168名、採用者145名でした。なお、応募者の中で基準を満たす学生は全員採用されました。前年度からの継続も含めると、利用者は無利子奨学金と有利子奨学金を合わせて延べ906名になりました。

その他にも、地方自治体や財団法人等の奨学金制度について募集情報を随時学生に周知しており、多くの学生が応募し、採用されています。その結果本学では、学内外の奨学金制度利用率は、約3割となりました。

2. キャリア支援

キャリア支援室では、学部学生・大学院生への個別相談及び個別指導に重点を置きつつ、卒業生に対する支援活動を行いました。支援プログラムの展開では、各種講演会・学内合同企業説明会・就活ミニセミナーに加え、インターンシップ講座、体験学生の発表会、全学部生を対象とした就職ガイダンスやSPI試験対策講座・公務員試験対策講座を開催し、様々な形式で支援活動を行いました。活動終了後はすべてアンケート調査を行い、一層の充実を図りました。

新規就職先開拓のため企業や施設に職員が訪問する等、年間を通じて求職アプローチを行いました。更に、キャリア支援室利用者の満足度を高めるため、求人票ファイルや進路支援システムの更新等、学生の進路・就職支援活動の充実を図りました。

3. 健康管理

昭和大学全体（3キャンパス・8病院）で、定期健康診断の検査項目を統一しました。また、学生及び職員の定期健康診断は健康と感染対策の観点から検査項目を新たに追加し、充実を図り、健康診断の受診に対する意識の向上を図りました。

第2章 事業の概要

学生については、感染症対策としてB型肝炎ワクチン接種、麻疹・風疹・水痘・ムンプス抗体価検査、ツベルクリン反応検査等を実施し、病院実習時に携帯する感染症抗体価カードの作製も行いました。職員については、労働安全衛生法による特殊健診もきめ細かく実施しました。なお、全学生及び全職員の健康診断結果（一元化されたデータ）を保健管理センターで保管・解読する健診システムを導入し、各施設の産業医が連携を取り合い、疾病の早期発見、二次健診の指導及び医療機関への紹介等の取り組みが可能になりました。

4. ホームカミングデー

第5回ホームカミングデーを10月7日に旗の台キャンパス、10月28日に横浜キャンパスにおいて開催しました。旗の台キャンパスでは医学部30回生・55回生、歯学部5回生、薬学部18回生をご招待し、卒後50年・卒後25年の記念表彰と懇親会を行いました。

また横浜キャンパスでは医療短期大学・保健医療学部の卒業生に多数ご出席いただき、記念講演と懇親会を行いました。

5. 課外活動等

第55回東日本医科学学生総合体育大会（東医体）では、剣道部、アイスホッケー部、馬術部が好成績を収めました。第44回全日本歯科学学生総合体育大会（全歯体）では、準硬式野球部が第3位、バスケットボール部が第5位に入賞しました。更に本年度武重優秀クラブ賞を受賞したラグビー部が、第59回関東医歯薬大学ラグビーリーグの1部リーグで優勝する等、多くのクラブが様々な大会で優秀な成績を残しました。他にも、本年度からトライアスロン部、アカペラ部、社会医療研究会が公認クラブとして活動を開始しました。また7月より長津田駅、1月より十日市場駅から横浜キャンパスを結ぶスクールバスが運行開始され、長津田総合運動場へのアクセスが円滑になり、クラブ活動により適した環境に整備されました。

10月、第52回旗が岡祭を旗の台キャンパス、第38回いぶき祭を昭和大学医学部附属看護専門学校において同時開催し、シンポジウムや昭和大学名人会等の運営を支援しました。昨年に引き続き品川区立第二延山小学校の児童による演奏を企画し、地域の方との交流も深まりました。また横浜キャンパスでは第16回緑風祭を開催しました。

3 国際交流

1. 学生の海外の大学における実習・研修

医学部29名、歯学部10名、薬学部28名、保健医療学部13名の計80名が、それぞれ海外の教育機関や医療機関で実習・研修を行いました。

実習・研修先は、姉妹校・学術交流協定校及び大学が認めた海外の大学や医療機関で、1年生は海外生活の体験や英語教育を中心に、2年生からは基礎科目を中心としたライフサイエンスを、6年生においては選択実習の一環として、実習を行いました。

また、医学部及び保健医療学部の学生2名が、医師や看護師の医療協力ボランティアチームに同行し、マダガスカルのアベマリア病院にて研修を行いました。

【学生海外研修・実習（平成24年度）】

学部	学生数	研修先	期 間
医学部	1名	ウィーン医科大学（オーストリア）	平成24年4月（M6 選択実習）
	1名	UCLA（米国）	平成24年4月（M6 選択実習）
	1名	UCLA（米国）	平成24年5～6月（M6 選択実習）
	1名	ハワイ大学（米国・ハワイ）	平成24年6月（M6 選択実習）
	2名	クイーンズメディカルセンター（米国・ハワイ）	平成24年4月（M6 選択実習）
	1名	メイヨークリニック（米国）	平成24年6月（M6 選択実習）
	1名	ピッツバーグメディカルセンター（米国）	平成24年6月（M6 選択実習）
	1名	ハーバート大学 ハーバート・ヒューマンリアン・イニシアティブ（米国）	平成24年4月15日～5月5日
	1名	アベマリア病院（マダガスカル）	平成24年6月12日～6月23日
	9名	UCLA（米国）	平成24年6月25日～8月3日
	3名	ポートランド州立大学（米国）	平成24年7月29日～8月24日
	1名	ジェームスタウン・コミュニティ・カレッジ（米国）	平成24年7月23日～8月13日
	1名	オックスフォード大学（英国）	平成24年7月14日～8月8日
	3名	ハワイ大学（米国）	平成25年3月3日～3月8日
	2名	ポートランド州立大学（米国）	平成25年3月14日～3月27日
歯学部	1名	ローマ市内開業医（イタリア）	平成24年4月（D6 選択実習）
	3名	ジェームスタウン・コミュニティ・カレッジ（米国）	平成24年7月23日～8月13日
	2名	ポートランド州立大学（米国）	平成24年7月29日～8月24日
	3名	ポートランド州立大学（米国）	平成25年3月14日～3月24日
	1名	ポートランド州立大学（米国）	平成25年3月14日～3月27日
薬学部	1名	UCLA（米国）	平成24年4月～5月（P6 選択実習）
	4名	オルバニー薬科大学（米国）	平成24年4月～5月（P6 選択実習）
	3名	UCLA（米国）	平成24年6月25日～8月3日
	3名	ジェームスタウン・コミュニティ・カレッジ（米国）	平成24年7月23日～8月13日
	5名	ポートランド州立大学（米国）	平成24年7月29日～8月24日
薬学部	1名	オックスフォード大学（英国）	平成24年7月18日～8月8日
	2名	マハサラカム大学（タイ）	平成25年1月7日～1月18日
	9名	ポートランド州立大学（米国）	平成25年3月14日～3月27日
保健医療学部	1名	アベマリア病院（マダガスカル）	平成24年6月12日～6月23日
	1名	ジェームスタウン・コミュニティ・カレッジ（米国）	平成24年7月23日～8月13日
	8名	ポートランド州立大学（米国）	平成24年7月29日～8月24日
	3名	ポートランド州立大学（米国）	平成25年3月14日～3月27日
計	80名		

第2章 事業の概要

2. 交流協定の締結状況

医学部において台北医科大学と医学部間協定を締結し、姉妹校・協定校数は延べ26校となりました。学生の交換留学をはじめ、国際交流活動が活発に行われています。

【姉妹校・学部間協定校一覧】

	大学名	国名	提携開始月
姉妹校・協定校	カイロ大学	エジプト	平成12年11月
	ローマ大学	イタリア	平成12年11月
	慶熙大学	韓国	平成12年5月
	ポートランド州立大学	アメリカ	平成20年7月
医学部間協定	チューレン大学	アメリカ	平成15年7月
	ミネソタ大学	アメリカ	平成16年11月
	ウィーン医科大学	オーストリア	平成17年9月
	ハワイ大学	アメリカ	平成18年2月
	天津医科大学	中国	平成20年10月
	フィリピン大学	フィリピン	平成21年7月
	台北医科大学	台湾	平成24年10月
歯学部間協定	大連医科大学	中国	平成15年12月
	天津医科大学	中国	平成16年10月
	アデレード大学	オーストラリア	平成17年3月
	上海交通大学医学院	中国	平成17年4月
	南カリフォルニア大学	アメリカ	平成18年2月
	チュービンゲン大学	ドイツ	平成18年4月
	台北医科大学	中国（台湾）	平成18年12月
	香港大学	中国	平成19年2月
	トロント大学	カナダ	平成21年9月
	モンゴル健康科学大学	モンゴル	平成22年3月
	ブリティッシュコロンビア大学	カナダ	平成23年12月
薬学部間協定	嶺南大学	韓国	平成19年10月
	マハサラカム大学	タイ	平成20年8月
	オルバニー薬科大学	アメリカ	平成21年12月
保健医療学部協定	フィリピン大学	フィリピン	平成21年7月

3. 職員の海外留学、海外出張

本年度の海外留学について、米国をはじめ、ドイツ、カナダ、オーストラリアへ計17名の教育職員が赴き、学術研究に励みました。留学期間中は大学により身分と給与が保証され、帰国後は職務に復帰し後進の指導にあたりました。海外出張については、719件・43カ国に職員が赴き、学会発表等を行いました。

【国別学部別海外留学状況（平成24年度）】

(単位：人)

学部等国名	准教授				講師				助教				助教(員外)				合計
	医	歯	薬	保	医	歯	薬	保	医	歯	薬	保	医	歯	薬	保	
米国	1	0	0	0	1	0	0	0	5	0	1	0	4	0	0	0	12
カナダ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2
ドイツ	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
オーストラリア	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
計	1	0	0	0	2	0	1	0	5	2	1	0	5	0	0	0	17

※平成24年度出発した留学者数

【年度別学部別留学状況】

(単位：人)

	医学部	歯学部	薬学部	保健医療学部	計
平成20年度	7	1	2	0	10
平成21年度	13	2	1	0	16
平成22年度	15	1	0	0	16
平成23年度	10	2	1	0	13
平成24年度	13	2	2	0	17

【年度別海外出張状況】

(単位：人)

	医学部	歯学部	薬学部	保健医療学部	富士吉田教育学部	その他	合計
平成20年度	453	105	25	8	7	12	610
平成21年度	402	83	25	9	5	9	533
平成22年度	491	136	35	13	2	23	700
平成23年度	494	112	23	13	2	12	656
平成24年度	522	142	14	16	2	23	719

第2章 事業の概要

【目的別海外出張状況（平成24年度）】

（単位：人）

学 部		医学部	歯学部	薬学部	保健医療学部	富士吉田教育部	その他	合計
目 的	出席	253	29	3	6	1	4	296
	発表	177	82	9	8	1	7	284
調査・研究・討論		1	0	0	0	0	2	3
共同研究		2	6	0	0	0	0	8
視察(見学・訪問)		21	6	2	1	0	0	30
学会・研究の打合せ(検討)		10	12	2	0	0	1	25
講義・講演(招待演者)		38	9	1	2	0	0	50
指導(講師)・派遣・診療		38	1	0	0	0	3	42
研修・セミナー		19	3	1	0	0	1	24
その他(交流プログラム)		8	7	0	0	0	6	21
合計		567	155	18	17	2	24	783

※一回の出張で複数の目的がある場合、それぞれ1件ずつ計上

【渡航国別海外出張状況（平成24年度）】

国 名	件数	国 名	件数	国 名	件数
インド	15	マダガスカル	7	オランダ	37
ネパール	5	エチオピア	1	ドイツ	26
バングラデシュ	1	南アフリカ	2	フランス	32
タイ	21	オーストラリア	16	スペイン	9
シンガポール	9	ニュージーランド	1	ポルトガル	7
インドネシア	10	カナダ	22	イタリア	25
フィリピン	1	アメリカ	253	ギリシャ	2
中国	56	ブラジル	8	オーストリア	11
韓国	39	パラグアイ	1	スイス	13
モンゴル	4	フィンランド	1	ロシア	2
ベトナム	4	スウェーデン	5	クロアチア	2
台湾	32	ノルウェー	1		
トルコ	9	デンマーク	14		
ヨルダン	1	アイルランド	1		
サウジアラビア	2	イギリス	13		
アラブ首長国連邦	10	ベルギー	8		

計：739

※一回の出張で複数の渡航国がある場合、それぞれ1件ずつ計上。

4. 学部留学生・大学院留学生の受け入れ

学部留学生・大学院留学生の受け入れについて、今年度は協定校からの交換留学生や海外の医師、歯科医師及び研究者が研究または研修を目的として、16 カ国から 31 名の留学生が各教室や附属施設で研鑽を積みました。

本学では留学生に対する経済的支援として、奨学金制度（1 年を限度として月 10 万円を支給）を設けています。さらに生活基盤に対する支援策として、外国人宿舎（15 号館 12 室、フラッグ 6 室）を無償貸与しています。

【所属・国籍別学部留学生・大学院留学生（平成 24 年度）】

(単位：人)

国 籍	医学部		歯学部		薬学部		保健医療学部		合 計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
インド	0	0	1	2	0	0	0	0	1	2
タイ	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1
インドネシア	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0
フィリピン	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
韓国	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0
モンゴル	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
中国	3	3	0	0	0	0	0	0	3	3
台湾	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
トルコ	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0
マダガスカル	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0
米国	0	0	0	0	1	3	0	0	1	3
ペルー	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0
英国	2	1	0	0	0	0	0	0	2	1
イタリア	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
ギリシャ	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0
オーストリア	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0
小 計	13	7	2	3	2	4	0	0	17	14
合 計	20		5		6		0		31	

【年度別・学部別学部留学生・大学院留学生数】

(単位：人)

	医学部	歯学部	薬学部	保健医療学部	その他	計
平成 20 年度	20	8	2	0	0	31
平成 21 年度	24	7	5	0	0	36
平成 22 年度	17	11	10	0	0	38
平成 23 年度	10	7	10	0	0	27
平成 24 年度	20	5	6	0	0	31

第2章 事業の概要

4 地域連携

1. 公開講座

本学における教育・研究を広く社会に開放し、文化の向上と社会人の教養を高めることを目的に、平成元年度から昭和大学公開講座を開講しています。本講座は医系総合大学としての特色を活かして、「暮らしと健康」をメインテーマとしています。

①旗の台キャンパス <暮らしと健康 ～最新のアレルギー・膠原病医療～>

実施日	テーマ	講 師
5月19日	関節リウマチの最新の話と今後の展望	笠間 毅 (医学部内科学リウマチ・膠原病内科学部門・准教授)
	喘息に関する最新の話	田中 明彦 (医学部内科学呼吸器・アレルギー内科学部門・講師)
5月26日	アレルギー・膠原病に使用する薬の注意点	名倉 美之 (昭和大学病院附属東病院薬局薬剤師・主任)
	気をつけたいお薬のアレルギー	末木 博彦 (医学部皮膚科学・教授)
10月13日	花粉症の疑問に答えます	金井 憲一 (医学部耳鼻咽喉科学藤が丘病院・准教授)
	喘息患者さんの日常生活での管理	和田 麻依子 (昭和大学病院看護部・慢性呼吸器疾患看護認定看護師)
10月27日	正しい食物アレルギーの知識	今井 孝成 (医学部小児科学・講師)
	金属アレルギーに対する歯科医師の役割	鎌谷 宇明 (歯学部顎口腔疾患制御外科学・助教)

②横浜キャンパス <暮らしと健康>

実施日	テーマ	講 師
10月13日	手を動かして健康維持	鈴木 憲雄 (保健医療学部作業療法学科・講師)

③富士吉田キャンパス <暮らしと健康>

実施日	テーマ	講 師
5月26日	美味しく安全に食べるために —肥満や窒息事故を予防する食べ方—	向井 美恵 (歯学部パシフィック口腔医学口腔衛生学部門・教授)
	地下のリサイクル工場特別見学会 —案内役土壌動物—	新島 湊子 (元森林総合研究所多摩森林科学園主任研究員)
10月20日	こころとからだのお話 ～ストレスとの付き合い方～	穂坂 路男 (勝山診療所・所長)
	医療に生きるハーブの力 ～植物生まれの医薬品～	平井 康昭 (薬学部薬用植物学・准教授)

④歯科病院 <暮らしと健康>

実施日	テーマ	講師
7月14日	安全で安心なインプラント治療	尾関 雅彦 (歯学部インプラント歯科学・准教授)
	お口の健康度チェック ～歯科ドッグをご存知ですか?～	井上 美津子 (歯学部小児成育歯科学・教授)
	お口の健康のための ブラッシングポイント	佐藤 祥子 (歯科病院・歯科衛生士)

⑤藤が丘病院・藤が丘リハビリテーション病院 <暮らしと健康>

実施日	テーマ	講師
6月23日	～正しい知識があなたを守る～ 糖尿病とは?	大塚 史子 (医学部内科学糖尿病・代謝・内分泌内科学部門 藤が丘病院内分泌代謝科・助教)
	糖尿病から起こる眼底出血 ー 糖尿病性網膜症 ー	早田 光孝 (医学部眼科学 リハビリテーション病院眼科・助教)
10月13日	急性心筋梗塞と心臓リハビリ	礪 良崇 (医学部内科学循環器内科学部門 リハビリテーション病院内科系診療科・講師)
	認知症を正しく理解する	市川 博雄 (医学部内科学神経内科学部門 藤が丘病院脳神経内科・准教授)

⑥横浜市北部病院 <暮らしと健康>

実施日	テーマ	講師
5月12日	被曝の真実 ～価値ある命を守るために～	馳澤 憲二 (医学部放射線医学放射線科学部門 横浜市北部病院放射線科・准教授)
	子ども健診のポイントと急病の対応 ～小児科は子育ての応援団です～	曾我 恭司 (医学部小児科学 横浜市北部病院こどもセンター・講師)
10月13日	膝痛・足痛について	中村 正則 (医学部整形外科 横浜市北部病院整形外科・准教授)
	気管支ぜんそく ～最近の治療について～	堀内 一哉 (医学部内科学呼吸器アレルギー内科学部門 横浜市北部病院呼吸器センター・助教)

第2章 事業の概要

⑦豊洲病院 <暮らしと健康 ～いつも楽しく体を動かそう！～>

実施日	テーマ	講師
10月6日	頻尿で困っていませんか	石原 理裕 (医学部泌尿器科学 豊洲病院泌尿器科・助教)
	スポーツ活動中に多い怪我 【第一弾 手と肘】	富田 一誠 (医学部整形外科学 豊洲病院整形外科・准教授)

⑧烏山病院 <暮らしと健康>

実施日	テーマ	講師
6月2日	元気のもと運動から	蜂須 貢 (薬学部臨床精神薬学寄付講座・教授)
1月12日	発達障害の最前線 ―最新の研究と現場での対応―	
	I部 『大人の発達障害』	加藤 進昌 (昭和大学附属烏山病院・院長)
	II部 『発達障害における 最新の脳画像研究』	橋本 龍一郎 (首都大学東京大学院人文科学研究科・准教授)
	II部 『発達障害の臨床研究』	中村 元昭 (神奈川県精神医療センター 芹香病院・医長)
	II部 『デイケアでの取り組み』	横井 英樹 (昭和大学附属烏山病院・臨床心理士)
	II部 『子どもの発達障害』	金井 智恵子 (相模女子大学学芸学部子ども教育学科・講師)

5 図書館

1. 図書の整備

図書館の利便性向上のため、平成 25 年度からの平日・土曜の開館時間延長と、休日開館に向け準備を行いました。図書整備では新刊書の整備を継続し、国内電子ジャーナルやデータベースの追加導入も行いました。

【蔵書】

	図書の冊数(冊)		定期刊行物(種類)		視聴覚資料 (点)	電子ブック (種類)	電子ジャーナル (種類)	データベース (種類)
	図書	開架図書 (内数)	内国書	外国書				
本 館	242,601	214,473	2,288	2,323	357	161	4,928	11
歯科病院分室	16,425	※	※	※	83			11
富士吉田校舎分室	41,526	※	※	※	192			11
長津田校舎分室	37,306	30,515	546	101	2,477			10
藤が丘病院分室	16,342	16,342	137	317	4			11
合 計	354,200	261,330	2,971	2,741	3,113	161	4,928	-

※は本館に含む

6 附属学校

1. 医学部附属看護専門学校

(1) 学生の受け入れ

東京、神奈川を中心に訪問校を増やし、説明会への参加も積極的に行いました。学校説明会は、地方の学生が参加しやすい日程を検討し、学内では年5回実施しました。また、学生のニーズに合わせ「キャンパスツアー」や「模擬授業」を導入し、楽しみながら学校を理解でき、かつ印象に残る内容の実施に努めました。

(2) 学生の支援体制の充実

視聴覚教材の効果的な使用や教育職員による模擬授業を行い、ディスカッションしながら教育効果の期待できる内容で講義を実施できるよう努めました。また、各学年で担当教育職員を設け、生活指導・学習指導の充実を図りました。

(3) 創立 50 周年記念事業

12 月 8 日に卒業生・来賓 250 名の出席のもと、昭和大学看護教育 80 年・医学部附属看護専門学校 50 周年記念式典・祝賀会を執り行いました。また、卒業生・講師等、長年学校運営にご協力いただいた先生方による、昭和大学医学部附属看護専門学校の看護教育の歴史が織り込まれた記念誌を発行しました。

7 診療施設

1. 昭和大学病院

病院活性化推進委員会のプロジェクトを踏まえ、その趣旨である病院運営の円滑化・効率化を図り、安定した医療収入の確保に向けて、附属東病院と連携し事業を推進しました。

まず、平成23年度に設置したベッドコントロール管理室が効率的・効果的なベッド管理を行い、設置前の平成22年度に78.6%であった病床利用率が、平成23年度は85.4%、本年度は85.6%と、病床利用率が対平成22年度比で平成23年度は6.8%、本年度は7.0%向上しました。

ボランティアの受入に対しては、全附属病院において統一したポスターを作成するとともに、運用についても全病院共通の方式に変更し、新たな取り組みを開始しました。

地域医療連携の推進においては、逆紹介・返送の推進指針を周知し、組織的な対応を行いました。

受託事業については、前年度から引き続き、文部科学省大学改革推進等補助金による「チーム医療推進のための大学病院職員の人材養成システム事業」、「大学病院における医師等の勤務環境の改善のための人員の雇用」、文部科学省の周産期医療環境整備事業、東京都母体救命搬送システム受託事業、東京都周産期母子医療センター事業、東京都救命救急センター事業に採択され、社会的な要請に対応しました。

また、中央棟開設時に導入した医療機器等について、収支バランスを図りながら更新計画に則り更新を行いました。施設設備に関しては、病院内の照明をLEDに順次交換する等、省エネ対策を推進し、経費の節減に取り組みました。さらに、病院目標である5S（整理・整頓・清潔・清掃・習慣）の徹底に努め、毎週行っている病院長巡視においても職場環境の改善につながる整備を適宜行い、働きやすい職場環境の整備に努めました。

2. 昭和大学病院附属東病院

昭和大学病院と密接な連携を保ちながら脳神経外科入院患者の受入等病床利用を促進するとともに、感染症対策としての個室の利用を強化し、病床稼働率向上と病床の円滑な運用に努めました。また、施設面では熱源機器の更新と病院の外壁補修を実施し、建物設備の維持を図りました。

3. 藤が丘病院

本年度は、救急機能の集約、手術室の効率的な運用のための改修工事を行うとともに、経営の合理化・安定化をめざしワークショップ、委員会を通じて職員一丸となって改善に取り組み、事業を展開してまいりました。

施設改修においては、ERと救命救急における運用を見直し、分離していた二次救急（ER）と三次救急（救命救急センター）の診療エリアを一体化することで、スタッフ間の連携強化による救急医療の質の向上と救急車受入れ件数増を図りました。また、救命救急センターでの受入患者数の増加を想定し、救急ICU、集中治療室をそれぞれ2床増床し、ER入院患者受け入れ病棟であるEIUを再整備しました。再整備により前年に比べ、ERにおける患者受入れ件数422件、救急車受入れ件数約900件、入院件数約280件の増加になりました。手術室については、2室を移設改修しました。

また、DPC を最大限に活用するための適正な入院期間の遵守と新規入院患者の受入れを強化するため、本年度より「医療連携推進部」を新設し、地域医療連携、ベッドコントロール、MSW、退院促進の機能を統合することで、人的資源を有効に活用しました。また、情報を一元管理し、長期入院患者の解消に取り組みました。

本年度は、病院全体の施設設備や運用に係る大きな事業計画を実施しましたが、全職員が病院の進むべき方向を理解し、協力したことで病床稼働を停止することなく事業計画を遂行でき、医療収入予算を達成することができました。

4. 藤が丘リハビリテーション病院

藤が丘病院との連携強化を目的に、地域連携・ベッドコントロール・MSW・退院促進における機能を藤が丘病院に統合しました。また、藤が丘病院の救急医療部門の充実により、両病院の診療が一体となり、急性期医療から回復期リハビリ、そして地域医療機関へのスムーズな患者の流れが確保され、その基盤を構築することができました。

また、入院における回復期リハビリを休日に実施し、退院促進を図りました。さらに、新たな診療ニーズに応えられるよう内科医師による心臓リハビリテーションを強化し、診療面の充実を図りました。

機器更新については、藤が丘病院との連携強化による重篤な基礎疾患を有した入院患者に対応するため、監視モニターの整備を行いました。

5. 横浜市北部病院

西棟産科病棟（マタニティハウス）を開設し、ハイリスク・ローリスク分娩を病棟機能別に振り分け、横浜北部医療圏における周産期医療のハイリスク分娩への体制を整備しました。

また、ベッドコントロール管理室の下、目標に掲げた病床利用率及び在院日数を堅持することにより医療収入の安定を図りました。

局所麻酔小手術専門の手術室については、改修運用計画の検討を行いました。西棟2階病棟については、横浜市から精神科救急基幹病院機能強化事業として、スーパー救急病床の確保の依頼を受け、精神科病床50床を42床に変更し、設置要件である1/2以上の個室を確保するよう改修工事を実施し、3月よりスーパー救急病棟として運営を開始しました。

地域医療支援病院として、医療体制の整備を図ることにより、紹介率80%、逆紹介率40%以上を維持し、患者サービスの向上並びに地域医療への充実に努めました。

6. 豊洲病院

建設中の昭和大学江東豊洲病院への円滑な移行のため、設備投資の抑制や開院までの期間を見据えての効率的な業務の改善に努めました。

また、かかりつけ医制度を推進する目的で、検診業務の地域医療機関への委譲と、精査目的の新規紹介患者の受入れという柔軟な連携体制を構築しました。

更に、近隣医療機関との連携を一層深めるため取り組んだ、地域三医師会との地域連携講演会の継続開催を定着させるとともに、新病院への継承に努めました。

病床稼働は、事務によるベッドコントロールの管理強化と急患の全件受け入れの姿勢の浸透により、下半期は上半期比5%増と改善傾向を認めました。3年前から取り組んできた、外来の

第2章 事業の概要

スリム化と病棟の充実が現実的なものとなりつつあります。

新病院の特色である土日診療週日化に向けて、1月より試験的に開始した土曜週日化の検証を行い、新病院の運用に役立つデータの収集に努めました。

7. 烏山病院

平成23年度に閉鎖した旧B2病棟の改修計画を検討しました。臨床薬理研究センターは8月、世界でヒトに初めて投与する医薬品候補の安全性、有用性を検討するためFirst in Human（第I相試験）を実施しました。

8. 豊洲クリニック

小児科・婦人科・乳腺外科等の新規患者が増加傾向にあり、新病院のキャッチフレーズである「女性と子供にやさしい病院」に繋がる患者層の受入れ強化に努めました。また、区より要請される各種検診や予防接種等を、地域の医療機関と連携を図りながら実施しました。このように、地域のニーズに沿った専門性の高い医療の提供に加え、1月より新たに土曜週日診療を試行し、新病院運用体制の検討に有益なデータの収集と分析に取り組みました。

9. 歯科病院

患者アメニティーの充実を目的に、1号棟1階トイレの改修及び授乳室設置工事、1号棟2階病棟壁面塗装及び個室トイレ段差解消工事を行いました。また、患者の利便性を考慮し、臨床病理検査室を地下2階から1階に移転しました。

施設整備については、助成事業である建物耐震診断、また2号棟内外壁の塗装工事を行いました。なお、建物耐震診断の結果、異状なしとの評価を得ました。

電子カルテに続き導入したPACSについて、平成25年度からの運用開始に向け、効率的な運用計画を検討しました。

医療連携については、歯科病院クリニカルセミナーや昭和大学口腔ケアセンターと協働した講演会・勉強会を開催し、地域歯科医師会との連携の強化に努めました。また今年度、歯学部同窓生（1都3県）連携セミナーを初めて開催し、連携の強化を図りました。

第3章 財務の概要

1 決算の概要

1. 貸借対照表の状況

平成25年3月31日現在の財産状況を示します。固定資産（土地・建物・機器備品・特定預金他）と流動資産（現金預金・未収入金他）の資産の部合計は2007億4218万円で、前年度末と比べて87億3602万円の増となりました。

主な要因は、固定資産において土地が大学校地近隣地取得により2億7030万円の増、また、流動資産において現金預金が江東区からの江東豊洲病院建設工事費補助金の25億円、江東豊洲病院看護師寮建設等工事の借入金20億円等により47億1349万円増となりました。なお、既存の建物・機器備品等の減価償却額65億527万円が前年度簿価より減少しました。

一方、固定負債（長期借入金・学校債他）と流動負債（次年度借入金返済金）の負債の部合計は572億8626万円で、前年度末に比べて1億6547万円減となりました。

資産の部合計から負債の部合計を差し引いた「正味財産」は1434億5592万円で、前年度より89億150万円増となりました。

2. 収支計算書の状況

消費収入の部合計は897億3786万円で、基本金組入額83億8040万円を除く帰属収入合計は981億1826万円となりました。予算対比で21億6438万円（2.2%）の増、前年度対比で21億7519万円の増となりました。

予算と比べて、学生生徒等納付金が3億8748万円（4.1%）の増、医療収入は10億7278万円（1.4%）の増、補助金が3億4453万円（4.3%）の増、雑収入は6701万円（10.8%）の増となりました。

学生生徒等納付金、手数料が、入学志願者数の増加により増となりました。医療収入では、昭和大学病院、昭和大学病院附属東病院、藤が丘リハビリテーション病院、横浜市北部病院、豊洲病院、歯科病院が前年度対比で増となりました。

一方、消費支出の部合計は892億1676万円で、予算対比で2億8994万円（0.3%）の減、前年度対比で9765万円の減となりました。

予算と比べて、人件費は7450万円（0.1%）の増、教育研究経費は3億6397万円（0.8%）の減、管理経費は2億2458万円（6.7%）の減となりました。

前年度と比べて、人件費は5億7779万円（1.3%）の増、教育研究経費は3億6724万円（0.8%）の増、管理経費は2億4607万円（7.3%）の減となりました。

直接医療経費の合計額は医療収入比30.1%で、予算対比で5億6933万円（2.5%）の増、前年度対比で3554万円（0.1%）の減となりました。

帰属収支差額では、89億150万円の収入超過となり、前年度と比較すると、前年度は66億2866万円の収入超過であり、22億7284万円の増益となりました。また、帰属収支差額比率は9.0%となりました。

消費収入から消費支出を引いた消費収支差額は、5億2109万円の収入超過となりました。

第3章 財務の概要

2 経年比較

1. 貸借対照表

(単位：千円)

	平成20年度末	平成21年度末	平成22年度末	平成23年度末	平成24年度末
固定資産	138,593,258	139,414,458	145,235,382	144,834,105	148,010,117
流動資産	35,524,506	38,196,690	40,132,172	47,172,058	52,732,070
資産の部合計	174,117,764	177,611,148	185,367,555	192,006,163	200,742,187
固定負債	38,893,768	40,489,522	46,212,403	45,235,110	44,849,389
流動負債	12,621,600	12,580,857	11,229,387	12,216,629	12,436,872
負債の部合計	51,515,368	53,070,379	57,441,791	57,451,739	57,286,261
基本金の部合計	192,196,217	199,913,789	206,794,461	211,745,547	220,125,949
消費収支差額の部合計	△69,593,821	△75,373,020	△78,868,698	△77,191,123	△76,670,023
負債の部、基本金及び消費収支差額の部合計	174,117,764	177,611,148	185,367,555	192,006,163	200,742,187

2. 収支計算書

(1) 資金収支計算書

(単位：千円)

収入の部	平成20年度末	平成21年度末	平成22年度末	平成23年度末	平成24年度末
学生生徒等納付金収入	10,046,010	10,001,900	10,170,410	10,174,315	9,715,485
手数料収入	363,173	423,453	411,138	427,802	547,366
医療収入	65,299,224	66,767,399	71,143,067	73,305,502	75,595,235
寄付金収入	1,143,552	1,102,726	1,165,283	1,103,726	1,173,172
補助金収入	5,715,187	5,562,001	5,551,432	8,419,268	8,336,560
資産運用収入	1,339,953	955,201	930,202	907,039	932,000
資産売却収入	600,520	63,156	1,602,112	0	2,100
事業収入	948,268	949,820	883,432	867,402	1,105,120
雑収入	629,133	686,262	874,289	696,037	684,132
借入金等収入	0	3,000,000	7,000,000	500,000	2,000,000
前受金収入	2,771,211	2,723,806	2,442,086	2,127,034	2,039,043
その他収入	12,304,796	14,776,079	22,254,944	18,572,359	13,281,627
資金収入調整勘定	△14,110,736	△14,803,428	△15,643,690	△15,465,567	△15,222,375
前年度繰越支払資金	22,387,390	23,779,810	25,815,008	26,936,966	33,852,647
収入の部合計	109,437,681	115,988,185	134,599,713	128,571,883	134,042,112

(単位：千円)

支出の部	平成20年度末	平成21年度末	平成22年度末	平成23年度末	平成24年度末
人件費支出	39,084,640	40,707,430	41,796,223	41,983,047	42,892,561
教育研究経費支出	33,285,060	33,489,385	33,766,829	34,791,160	35,337,367
管理経費支出	2,400,043	2,619,443	2,861,234	3,004,414	2,783,536
借入金等利息支出	791,694	741,589	731,714	822,089	782,757
借入金等返済支出	1,892,904	1,569,040	1,621,200	1,519,160	1,956,040
施設関係支出	2,985,640	4,559,543	6,288,045	9,889,501	6,011,986
設備関係支出	3,866,464	2,991,088	3,057,884	2,774,741	3,523,466
資産運用支出	2,258,928	3,254,875	16,320,221	411,209	765,255
その他の支出	6,613,739	7,717,288	7,559,783	6,734,544	8,443,243
資金支出調整勘定	△7,521,241	△7,476,504	△6,340,386	△7,210,629	△7,020,243
次年度繰越支払資金	23,779,810	25,815,008	26,936,966	33,852,647	38,566,144
支出の部合計	109,437,681	115,988,185	134,599,713	128,571,883	134,042,112

第3章 財務の概要

(2) 消費収支計算書

(単位：千円)

消費収入の部	平成20年度末	平成21年度末	平成22年度末	平成23年度末	平成24年度末
学生生徒等納付金	10,046,010	10,001,900	10,170,410	10,174,315	9,715,485
手数料	363,173	423,453	411,138	427,802	547,366
医療収入	65,299,224	66,767,399	71,143,067	73,305,502	75,595,235
寄付金	1,188,454	1,149,017	1,183,219	1,140,276	1,200,404
補助金	5,715,187	5,562,001	5,551,433	8,419,268	8,336,560
資産運用収入	1,339,953	955,201	930,202	907,039	931,999
資産売却差額	158	0	2,099	0	1,800
事業収入	948,268	949,820	883,432	867,401	1,105,120
雑収入	634,569	686,546	876,170	701,472	684,300
帰属収入合計	85,534,996	86,495,337	91,151,170	95,943,075	98,118,269
基本金組入額合計	△7,529,932	△7,717,572	△6,880,672	△4,951,085	△8,380,402
消費収入の部合計	78,005,064	78,777,765	84,270,498	90,991,990	89,737,867

(単位：千円)

消費支出の部	平成20年度末	平成21年度末	平成22年度末	平成23年度末	平成24年度末
人件費	39,366,208	40,932,435	42,060,025	42,446,562	43,024,360
教育研究経費	40,110,113	39,645,221	40,035,214	41,128,122	41,495,366
管理経費	2,867,686	2,994,660	3,241,662	3,371,919	3,125,847
借入金等利息	791,694	741,589	731,714	822,089	782,756
資産処分差額	790,422	132,889	1,585,376	1,457,109	697,992
徴収不能引当金繰入額	86,618	110,170	112,185	88,614	90,446
消費支出の部合計	84,012,741	84,556,964	87,766,176	89,314,415	89,216,767
当年度消費支出超過額	6,007,677	5,779,199	3,495,678	△1,677,575	△521,099
前年度繰越消費収支超過額	63,586,144	69,593,821	75,373,020	78,868,698	77,191,123
基本金取崩額	0	0	0	0	0
翌年度繰越消費収支超過額	69,593,821	75,373,020	78,868,698	77,191,123	76,670,023

3 主な財務比率比較

(単位：％)

比 率 名	算 式	H20年度末	H21年度末	H22年度末	H23年度末	H24年度末
帰属収支差額比率	$\frac{\text{帰属収入}-\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	1.8%	2.2%	3.7%	6.9%	9.0%
消費収支比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{消費収入}}$	107.7%	107.3%	104.1%	98.2%	99.4%
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{帰属収入}}$	11.7%	11.6%	11.2%	10.6%	9.9%
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	46.0%	47.3%	46.1%	44.2%	43.8%
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	46.9%	45.8%	43.9%	42.9%	42.3%
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	3.4%	3.5%	3.6%	3.5%	3.2%
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	281.5%	303.6%	357.4%	398.4%	424.0%
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{自己資金 ※1}}$	42.0%	42.6%	44.9%	42.7%	39.9%
自己資金構成比率	$\frac{\text{自己資金}}{\text{総資金 ※2}}$	70.4%	70.1%	69.0%	70.1%	71.4%
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	90.2%	91.3%	91.1%	93.3%	90.3%

※1 自己資金＝基本金＋消費支出差額

※2 総資金＝負債＋基本金＋消費支出差額

第3章 財務の概要

4 その他

1. 借入金の状況

借入先	借入残高	利 率	返済期限	担保等
日本私立学校振興・共済事業団	10,125,000,000円	0%～2.0%	平成42年9月	横浜校舎土地、建物ほか
日本政策投資銀行	2,000,000,000円	0.7%	平成34年9月	歯科病院土地、建物
福祉医療機構	3,915,910,000円	1.8%	平成35年5月	横浜市北部病院建物
二次協調融資団	12,585,470,000円	3.995% (平成25年まで)	平成38年2月	旗の台校舎土地、 昭和大学病院土地
合 計	28,626,380,000円			

2. 学校債の状況

発行年度	平成23年度末残高	利 率	償還期限	摘 要
平成15年度	251,000,000円	0%	平成25年度	
平成16年度	188,000,000円	0%	平成26年度	
平成17年度	121,000,000円	0%	平成27年度	
平成18年度	96,000,000円	0%	平成28年度	
合計	656,000,000円			

※学校債の募集は平成18年度で終了

3. 寄付金の状況

寄付金の種類	寄付者	金 額	摘 要
一般寄付金	父兄	110,550,000円	
富士吉田校舎教育施設整備事業募金	一般、教職員、同窓生、父兄ほか	17,390,000円	

4. 補助金の状況

平成24年度の私立大学等経常費補助金交付額は43億1637万円と、前年度比5945万円減となりました。一般補助は圧縮率の変動により前年度比7854万円減となりましたが、特別補助では前年度比1908万円増となりました。

また、平成24年度においても競争的外部資金の獲得のため、積極的に公的事業・公的研究費への応募を行い、文部科学省の「大学間連携共同教育推進事業」、「専門的看護師・薬剤師等医療人養成事業」等が採択されました。

5. 関連当事者等との取引の状況

1) 出資会社

会社等の名称	事業内容	資本金等	出資割合	取引の内容	保証債務等
昭友商事株式会社	大学及び病院施設・設備の管理業務他	10,000千円	100%	施設賃貸、物品購入・業務委託等	債務保証を行っていない。

平成24年度
学校法人昭和大学事業報告書

発 行	学校法人 昭和大学 〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL. 03-3784-8000（代表）
発行日	平成25年5月30日
事務局	総務部総務課 TEL. 03-3784-8011 FAX. 03-3484-8012
印 刷	勝美印刷株式会社